



## L コマンド

---

この章では、L で始まる、Cisco NX-OS ファイバチャネル、仮想ファイバチャネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

# lldp

Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) のグローバル オプションを設定するには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**lldp** {*holdtime seconds* | *reinit seconds* | *timer seconds*}

**no lldp** {*holdtime* | *reinit* | *timer*}

## 構文の説明

<b>holdtime</b> <i>seconds</i>	保持時間 (秒単位) を指定し、デバイスが、受信した LLDP 情報を破棄するまでに保持する時間の長さを設定します。  有効な範囲は 10 ~ 255 です。デフォルトは 120 秒です。
<b>reinit</b> <i>seconds</i>	任意のインターフェイスで LLDP の初期化を実行する前に待つ時間の長さ (秒単位) を指定します。  有効な範囲は 1 ~ 10 秒で、デフォルトは 2 秒です。
<b>timer</b> <i>seconds</i>	LLDP パケットが送信されるレート (秒単位) を指定します。  有効な範囲は 5 ~ 254 秒で、デフォルトは 30 秒です。

## コマンド デフォルト

保持時間 : 120 秒。  
再初期化 : 2 秒。  
タイマー : 30 秒。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

LLDP 設定値には、ピアから受信した LLDP 情報を廃棄するまでの時間、任意のインターフェイスで LLDP 初期化を実行するまで待機する時間、および LLDP パケットを送信するレートが含まれます。

## 例

次に、グローバルな LLDP ホールドタイムを 200 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# lldp holdtime 200
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>lldp</b> (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。
<b>show lldp</b>	LLDP 設定情報を表示します。

# lldp (インターフェイス)

インターフェイス上でリンク層検出プロトコル (LLDP) パケットの受信または送信をイネーブルにするには、**lldp** コマンドを使用します。LLDP パケットの受信または送信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**lldp {receive | transmit}**

**no lldp {receive | transmit}**

## 構文の説明

<b>receive</b>	インターフェイスが LLDP パケットを受信するよう、指定します。
<b>transmit</b>	インターフェイスが LLDP パケットを送信するよう、指定します。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、LLDP パケットを送信するようインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# lldp transmit
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show interface</b>	インターフェイスに関する設定情報を表示します。

# logging abort

処理中のロギング Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**logging abort** コマンドを使用します。

## logging abort

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

### 例

次の例は、処理中のロギング CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging abort
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

# logging commit

ファブリック内で処理中のロギング Cisco Fabric Service (CFS) 配信セッションに関連した保留中のコンフィギュレーションを適用するには、**logging commit** コマンドを使用します。

## logging commit

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

### 例

次に、アクティブなロギング コンフィギュレーションへの変更をコミットする例を示します。

```
switch(config)# logging commit
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ロギング情報を表示します。

# logging distribute

ロギング用の Cisco Fabric Service (CFS) 配信をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging distribute**

**no logging distribute**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**logging commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションにコミットする必要があります。

## 例

次に、ロギング コンフィギュレーションの配信を変更する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>logging commit</b>	ロギング コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションにコミットします。
<b>show logging</b>	ロギング情報を表示します。